

藤原宮跡・藤原京跡の発掘調査

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

飛鳥・藤原宮跡発掘調査部では、藤原宮跡・藤原京跡において1986年度に別表(21頁)のような発掘調査を行った。本年度は藤原宮内では比較的小規模な発掘調査にとどまったが、京内において宅地もしくは官衙かと想定される地区を三カ所調査し、これまで明確でなかった一町ないしそれ以上の規模の土地利用の実態が明らかになったことが大きな成果といえる。

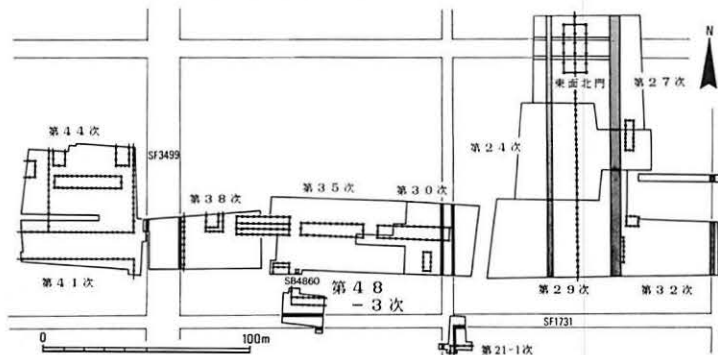
1. 藤原宮西南隅の調査(第51次)

住宅建設に伴う事前調査である。調査地は藤原宮の西南隅にあたり、調査の結果、西二坊坊間路と六条条間路の交差点が検出された。道路幅は溝心で西二坊坊間路が交差点の北側で7.0m、南側で6.8~6.9m、六条条間路が7mで、いずれも幅0.6~1mの側溝を伴っている。これらの道路は藤原宮造営前の七世紀後半に施工され、造営時に埋立てられたと考えられる。藤原宮期の遺構としては小規模な掘立柱建物2棟、塀1条、井戸1基がある。

調査地は弥生時代の集落遺跡・四分遺跡にもあたっているため、発掘区の一部を掘りさげて調査した。その結果、弥生時代の生活面は、南西が高く北東側が低い三段の平坦面からなっていた。この平坦面に竪穴住居や柱径30cmの掘立柱建物等が建ち、地下水位の高い南東隅にのみ井戸が集中していた。遺構は弥生時代の前期から後期までの各時期のものがある。

2. 藤原宮東方官衙地域の調査(第48-3次)

民家の新築に伴う事前調査である。調査地は橿原市高殿町で藤原宮大極殿東北東約300mの東方官衙の一画にあたる。発掘区の北側では第30・35・38次調査等によって、長大な東西棟3棟を中心に掘立柱建物群が建ち並ぶことが知られている。調査の結果、藤原宮造営前の四条条間路SF1731とその両側溝、藤原宮期の掘立柱建物SB4860、古墳時代の掘立柱建物等が検出された。SF1731の路面幅は5.5m、SB4860は桁行6間以上、梁間2間以上、南庇付きで柱間寸法は桁行2.6m、梁間3m、庇の出は3.1mである。SB4860の柱穴から出土した須恵器皿には「加之伎手官」との墨書があった。



藤原宮東方官衙地域調査位置図



墨書土器「加之伎手官」

3. 藤原京左京六条三坊の調査（第50・53次）

飛鳥藤原宮跡発掘調査部の新庁舎建設予定地における調査である。1985年度の第45・46・47次調査に引き続き、1986年度は第50次（発掘区は2カ所）・第53次（発掘区は3カ所）の調査を行い、建設予定地のほぼ全域の調査を終えたことになる。なお第53次の内の2カ所は1987年度の調査であるが、既に調査を終えているので併せて報告する。

第50次西区の遺構 藤原京B期の中心的な建物であるSB5000は桁行7間、梁間3間の身舎に南庇のつく大規模なもので、柱間寸法は桁行が約3m、梁間が2.7m、庇の出は3.2mである。この東北方に既に東半部の検出されているSB4737・4738の西半部を検出し、SB4737は桁行8間、SB4738は桁行5間と確定した。更に東北方のSB4800も西妻を検出して桁行5間と判明した。以上の藤原京B期の遺構に先行するA期の主な遺構として、SB5000に重なる位置で左京六条三坊坊間の南北道路SF4300及びその側溝SD4301・4302があり、SD4301はSB5000より約5m北で東へ折れSD4311と連なる。また藤原京期から奈良時代にかけて存続する東西大溝SD4130は当調査区では更に幅と深さを増し、発掘区西壁では幅11m、深さが1.8mあり、西流していたと知られる。この他、当発掘区北寄りに7世紀代の総柱建物SB5020・掘立柱塀SA5005、奈良時代の総柱建物SB5050、中世の掘立柱建物SB5030等を検出している。

第50次東区の遺構 第50次東区では7世紀代のやや方位のふれた区画の塀の西辺の南半部（SA4110・5080）と南辺（SA5090・5081・5085）を検出した。

第53次調査区の遺構 第53次調査区では、藤原京期以降存続する南北大溝SD4113、藤原京A期の坊間路SF4300とその両側溝、及びその東西にある南北塀SA4282・4283の延長部を検出した以外に顕著な遺構はない。

本年度までの5次にわたる調査の成果をまとめ、時期別に主要な遺構を示したのが次頁の図である。七世紀代には二つの異なった形態の区画が存在し、両区画の南方にも多数の小規模な

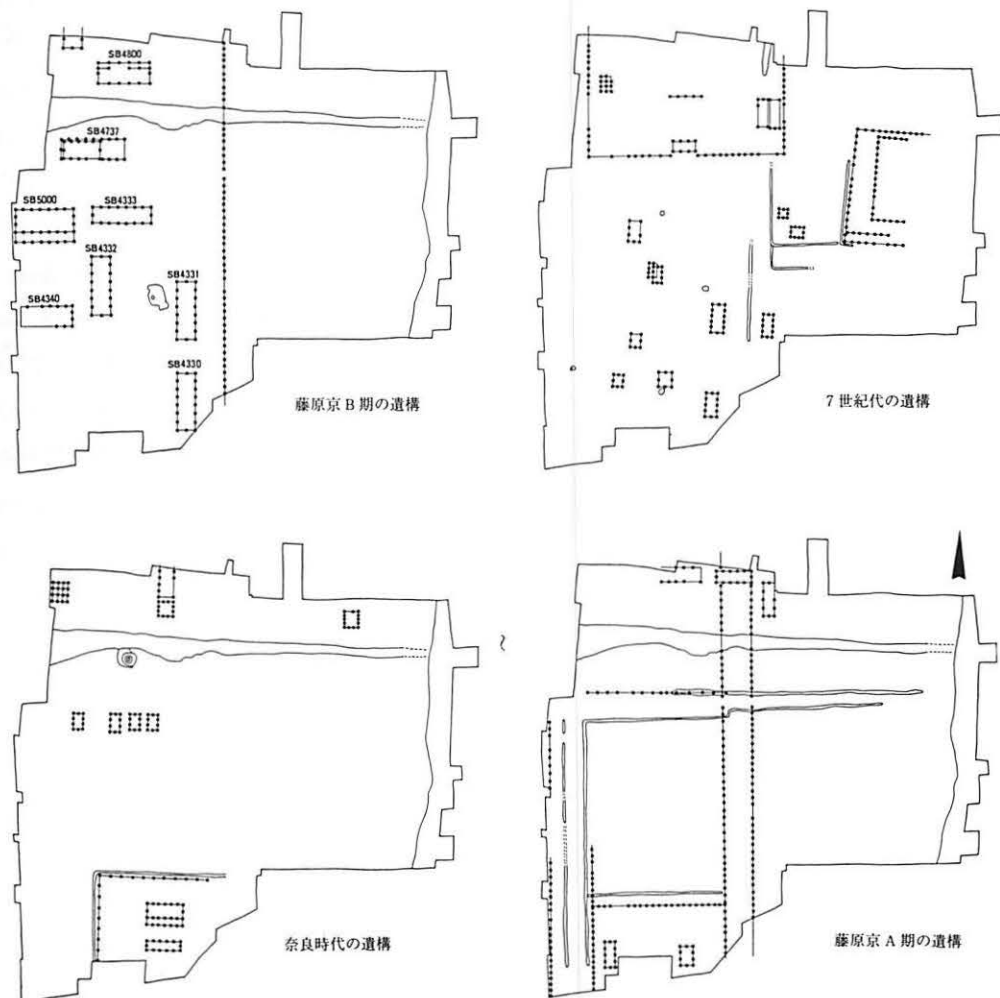


左京六条三坊調査位置図

掘立柱建物がある。特に西側の区画は東西幅66mで真北に対して殆ど振れがなく、内部に特殊な建物の存在を想定させる。藤原京期ではA期には一旦条坊が設定されるが、B期には坊間路の側溝を埋めたてて、四町を一体として土地利用している。SB5000は六条三坊の中心に位置し、その南に前殿SB4340、東に東西棟SB4333、

東南に南北棟の脇殿 3 棟 (SB4330・4331・4332) を二列に、また東北方には東西棟 2 棟 (SB4737・4800) を配し、複合的なコの字型の配置をとっている。しかもこの配置計画は90尺の方眼を基準にしているらしい。四町規模の敷地は『日本書紀』持統紀によれば右大臣の宅地にあたる可能性もあるが、建物配置からはむしろ官衙的な色彩が強いともいえる。その場合、東西大溝 SD4130から出土した斎串の墨書「左京職」は大きな手掛りとなる。しかし、右大臣邸が宮殿や官衙に近い建物配置をもたないと断定もしえないから、藤原京 B 期の性格はなお検討が望まれる。

奈良時代には溝と堀で囲まれて正殿と前殿の建つ区画があり、北側に小規模建物の並び建つ部分、大溝北側に総柱建物等の建つ部分があり、昨年度年報に「大和国正税帳」に見える香山正倉との関連を述べておいた。奈良時代以降も平安時代から鎌倉時代に至る時期の建物・井



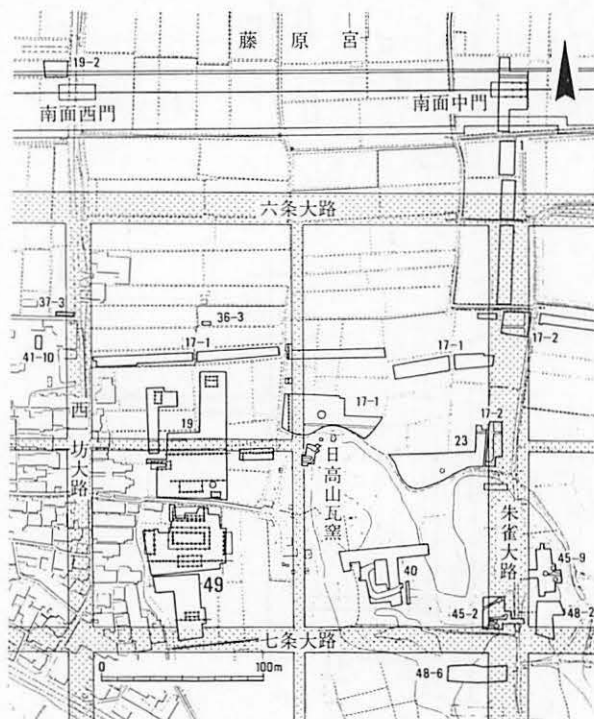
左京六条三坊主要遺構変遷図

戸・堀・溝があり、この地域の土地利用の変遷を知るうえで重要な知見がえられた。

4. 藤原京右京七条一坊西南坪の調査（第49次）

市営住宅の建設に伴う事前調査である。調査地は橿原市上飛弾町の日高山丘陵西側の平坦地で、藤原京右京七条一坊西南坪にあたる。既に1976年度の第19次調査で西南坪と西北坪の一部を調査し、西南坪では条間路に平行して坪周囲を画する東西堀と、その南に坪を東西に二分する中軸線上に桁行6間、梁間3間の東西棟建物（SB2000）があり、その背後に東西堀・附属屋・井戸等のある藤原宮期の宅地遺構、及び小数の7世紀代の建物を検出していた。第49次調査は第19次調査の南側で、西南坪の中央部から南半部を調査対象とした。

藤原宮期の遺構 掘立柱建物6棟、掘立柱堀4条、土坑1がある。SB4900は坪のほぼ中心に位置する東西棟で、桁行7間、梁間3間の身舎の四周に庇のつく大規模な建物である。柱間寸法は桁行が2.63m、梁間が2.1m、庇の出は南以外は3m、南のみ2.8mと3.3mの2時期分がある。庇の柱掘方は身舎の1/2以下と小さく、身舎と庇で屋根葺材をかえていたと考えられる。SB4930はSB4900の北側に平行して建つ東西棟で、北側柱列は確認しえていないが、桁行7間、梁間3間、南に広庇のつく建物に復原できる。柱間寸法は桁行が2.63m、梁間が2.2m。庇の出は2.9mで、身舎側柱から南へ1.5mのところにも柱列があり、広庇の床束か、もしくは庇の出を縮めて改造したと考えられる。SB4910・4920はSB4900の両脇に建つ南北棟でいずれも桁行は5間、梁間はSB4910は不明で、SB4920は2間である。柱間寸法はSB4910の桁行は2.56m、



右京七条一坊調査位置図

SB4920の桁行は2.88m、梁間は2.7mである。2棟はSB4900を挟んでほぼ対称に位置し、SB4920の規模がやや大きい。SB4940はSB4900の南にある桁行5間、梁間2間、総柱の東西棟である。柱間寸法は桁行2.86m、梁間3.0m。この建物の妻の棟通の柱にSA4941・4942がとりつく。柱間は1.9～2.4mとややばらつきがある。SB4940はこれらの堀に開く門である。SB4950は坪の南辺部に位置する桁行3間、梁間2間の総柱の東西棟で、柱間寸法は桁行2.5～2.9m、梁間2.5mである。この南側柱列に東西堀SA4951・4952がとりつく。柱間2.6m前後である。SB4950はこの堀に開く門である。

藤原宮期以前の遺構 溝3条、土坑1がある。溝はいずれも南東から北西へ流れ、SD4955・4957には玉石の護岸がある。飛鳥Ⅰ～Ⅱ段階の土器が出土した。

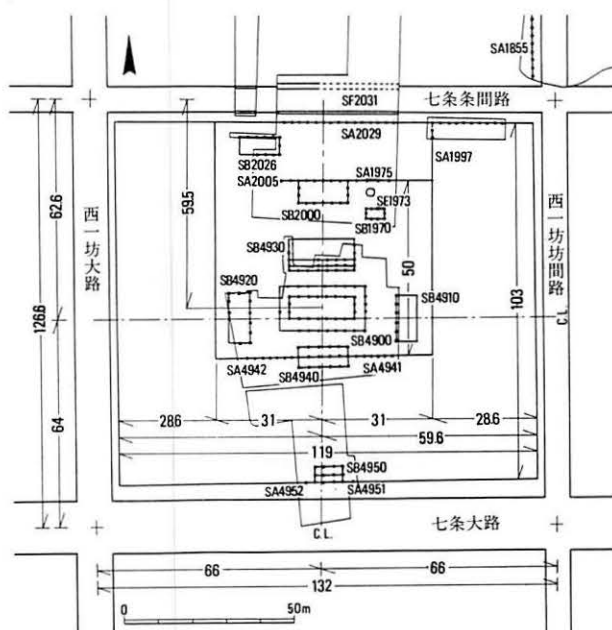
藤原宮期以降の遺構 建物1棟、溝4条、土坑5がある。SB4960はSB4950と重なる位置にあり桁行3間、梁間1間の小規模な南北棟である。溝からは10～11世紀の土器が出土している。

出土遺物 土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・施釉陶器等の土器、埴輪、鉄製鉈、埴塼・甕羽口・鉾滓、軒丸瓦を含む瓦、木製の鼻木等がある。柱根には伐採地付近で刻まれたと推定される文字のあるものがある。

藤原宮期の右京七条一坊西南坪の建物配置 第19次調査でSB4930の背後にSB2000があり、その北側柱列に揃えて塀が東西にのび、坪の北辺を限る塀も検出されていることから、今回の調査成果とあわせると、坪内の建物配置を図のように復原できる。坪の西辺と南辺を限る西一坊大路と七条大路の正確な位置は未確認であるものの、SA4951・4952は坪の南辺を、SA2029は坪の北辺を画し、南辺のほぼ中央に門SB4950が開いて外郭を形成する。外郭内部の南約1/3を空閑地として、坪中心のやや北よりに東西62m、南北50mの塀（SA4941・4942・1975・1997）で囲まれた内郭がある。内郭の南辺には門SB4940が開き、郭内に正殿SB4900、後殿SB4930、後々殿SB2000が南北に心を揃えて並び、正殿両脇に脇殿SB4910・4920が並ぶ。正殿身舎南側柱列は南北の坪心に一致している。後々殿の東脇には附属屋SB1970・井戸SE1973等がある。従って正殿・後殿・脇殿の一群と、後々殿・附属屋の一郭は性格を異にしていたかもしれない。内郭の背後は、内郭の東辺の塀SA1997がそのまま北へのびて小さな区画を造り、中に附属屋SB2026が建つ。

西南坪内は以上のような区画と建物配置であったと想定される。内郭の東西両側は未発掘で不明ではあるが、図にみるような規格性の強い配置であることがわかる。この坪が宅地であるのか官衙であるのかにわからぬに決り難い。宅地であるとするならば、『日本書紀』持統天皇五年十二月乙巳条に、直大参（正五位上）以下及び勤（正六位）以下の上戸に一町の宅地を班給すると定められており、そうした一町規模の宅地の一例を確認したことになる。

この建物配置の特徴として次の



右京七条一坊西南坪占地概念図

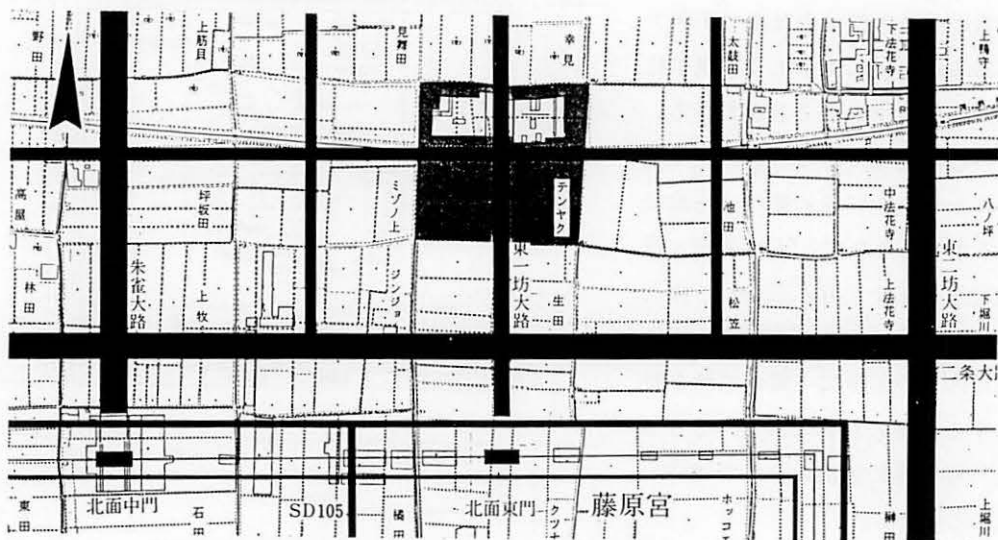
ような点があげられよう。まず坪の南側1/3が空地である点である。第二に内郭の南門の桁行が5間と大きく作られている。第三に内郭内に前庭部がなく、4棟の建物がかかり密接して立っている。第四に同じ内郭内部で前半と後半に性格の違いがあるらしく、SB2000周辺は日常生活を支える厨とも考えられている。この場合後殿SB4930後方でさらに区画する施設があるのかもしれない。第五に後々殿の桁行が偶数間である点で、これは飛鳥稲淵宮殿跡のような宮殿遺跡や、飛鳥時代の寺院の講堂にも共通して見られる特徴である。以上のような特徴が遺跡の性格を考える上でも重要な鍵となろう。藤原京内では右京二条三坊東南坪や左京二条三坊西南坪でも一町規模の土地利用が検出されており、そうした類例の中でも最も規格性の強い建物配置をもつ遺跡として重要なものと考えられる。

5. 藤原京左京二条一坊東北坪・同二条二坊西北坪の調査（第48次）

住宅建設に伴う事前調査である。調査地は橿原市高殿町の法花寺集落の西方にあたり、藤原京左京二条一坊と二条二坊にまたがる。またこの地は小字名が「テンヤク」であり、奈良県教育委員会が1966～68年に行った当地の西南方約200mの地点の調査で典薬寮関係木簡が出土していることから、この付近に典薬寮関係の薬園或は苑池の存在が想定されてきたところである。

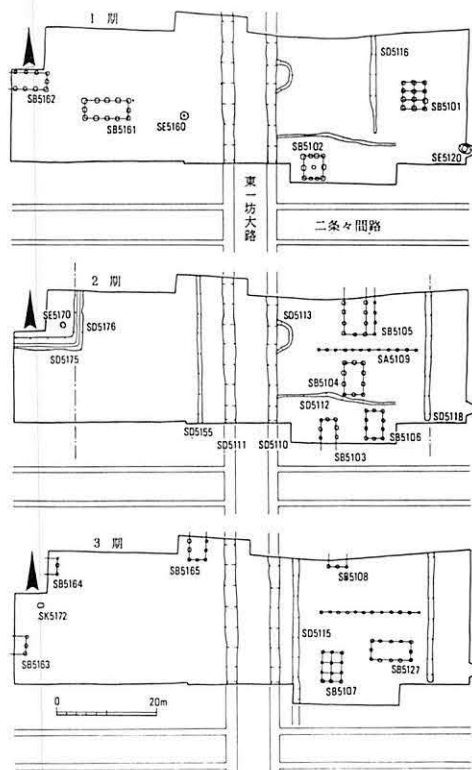
検出した遺構は、藤原宮期前後のものとして、東一坊大路とその両側溝の他、各坪内の掘立柱建物・堀、溝、井戸、土坑等があり、この他に弥生時代から古墳時代の土坑・溝、中世の掘立柱建物・堀、井戸がある。

藤原宮期前後の遺構 東一坊大路は路面幅6.5m、東西両側溝心の距離は8.6mである。東側溝SD5110は幅1.8m、深さ0.4m、西側溝SD5111は幅2.2～2.6m、深さ0.4m、いずれも溝埋土は上下二層にわかれ、下層は堆積土で飛鳥時代の土器が含まれ、上層は埋立土で藤原宮の瓦が含まれる。西側溝東岸には護岸のための杭がある。



左京二条一坊・同二条二坊調査位置図

坪内の遺構は3時期に分かれる。1期の二条二坊西北坪内の遺構は、2棟の掘立柱建物（SB5101・5102）と井戸（SE5120）、2条の溝（SD5112・5116）、土坑2からなる。SB5101は南北3間（総長4.9m）、東西2間（総長4.4m）の総柱建物であり、SB5102は南北2間（4.6m）、東西3間（3.9m）で、中央に一つの柱穴のある建物である。SE5120は上段に方形横板組の井戸枠、下段は素掘りか曲物を据えたと思われる。同じ1期の二条一坊東北坪内の遺構は2棟の掘立柱建物（SB5161・5162）と井戸（SE5160）からなる。SB5161は桁行4間、梁間2間の東西棟で、柱間寸法は桁行は2.1m・梁間は1.8mである。SB5162は桁行4間・梁間2間、柱間は桁行・梁間とも1.6mである。SE5160は掘形が径1.7mの六角形で、下段に径30cmの曲物を据えたと思われる。2期の二条二坊西北坪内の遺構は掘立柱建物4棟（SB5103・5104・5105）、掘立柱塀1条（SA5109）、溝3条（SD5112・5118・5113）、土坑1基である。SB5105のみが東に庇をもち、他の2棟は庇がない。SD5118に区切られた区画の中を、SA5109が南北に二分し、北側に庇つきのSB5105、南側にその他3棟がいずれも南北棟で建つ。SB5105・5104・5106は互に柱筋を揃えており、計画的な配置となる。SD5118は坪をほぼ東西に四等分する位置にあたっている。なおSD5113は東一坊大路東側溝の東岸にある円弧状の溝で東側溝と併存するが具体的な使用状況は不明である。2期の二条二坊東北坪内は東一坊大路西側溝に平行する溝SD5155と、L字型の溝SD5175があるのみである。このうち南北溝SD5176は坪の東西を四等分する位置にあり、東西溝SD5175の南岸は二条二坊西北坪内の塀SA5109の延長線上にあり、二条一坊東北坪内も二条二坊西北坪内と類似した区画を行っていることがわかる。3期の二条二坊西北坪内の遺構は掘立柱建物3棟（SB5107・5108・5127）、塀1条（SA5109）、溝2条（SD5118・5115）がある。この内、塀SA5109と溝SD5118は2期のまま残ると考えられ、2期の区画のまま建物等を改造したとみられる。SB5107は東西2間の総柱建物で、他の2棟は庇のない掘立柱建物である。SD5115は東一坊大路東側溝に平行する南北溝で、その方位の振れや出土遺物の特徴は2期の遺構に近く、2期まで遡る可能性がある。出土遺物から1期は藤原京造営直前の天武朝に施工された条坊と併存する時期、2期・3期は藤原宮期に該当する。



左京二条一坊・同二条坊遺構変遷図

遺物 土器・陶硯・土馬・韃羽口・形象埴輪、

軒平瓦1点を含む屋瓦、和同開珎銀銭がある。このうち和同開珎は東一坊大路西側溝 SD5111内
の西岸に近い部分からまとまって3枚出土した。その埋れていた層は特定できなかったが、銭
文は不隸開の古和同であり、和同開珎銀銭の初鑄年を考えるうえで手掛りを与えるものである。

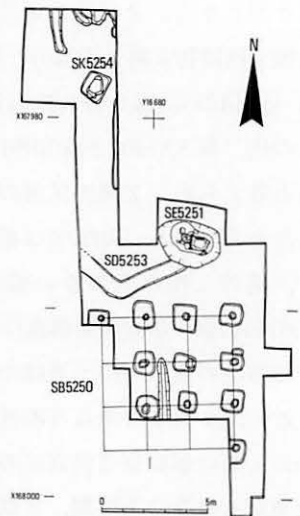
以上のように当調査では藤原宮域北側の条坊や坪内の状況について重要な知見を与えることが
できた。それを列挙すると次のようになる。(1) 宮域北方にも東一坊大路が施工されており、
規模は三条大路に類似する。ただし藤原宮第38次調査で検出した宮内先行条坊 SF3499とは幅員
を異にしており、先行条坊と京内東一坊大路の施工の関係についてはなお検討を要する。(2) 坪
内は溝や堀で四分或は八分して利用しているが、一坪敷地内での区画なのか否かは不明である。
(3) 坪内の建物配置には粗密があるが、検出した柱穴が極めて浅いことから、後世に削平されて
いることがわかり、一概に判断はできない。(4) 典薬寮との関連は不明である。

6. 藤原京西二坊大路の調査(第52次)

国道165号バイパス工事に伴う調査である。調査地は藤原京西二坊大路と一条大路の交点にあ
たる。西二坊大路西側溝は幅80cm以下で、長さ30mにわたって検出した。この西約3.6mのと
ころに坪の東辺を画するとみられる掘立柱塀がある。柱間は2m前後で一定しない。一条大路の
方は想定位置に両側溝とも検出されなかった。この他藤原宮期の井戸2基を検出したが、その
1基は一条大路路面想定位置上にあり、もう1基は西二坊大路西側の掘立柱塀の位置に重なっ
て営まれている。従って藤原宮期の右京二条三坊の東北隅及び西二坊大路・二条大路の交点付
近の土地利用の状況や大路の有無については検討の余地が大きいといえよう。

7. 藤原京左京十条三坊(第48-16次)の調査

水田造成に伴う事前調査である。調査地は明日香村小山の集落の東南にあたり、これまでの
調査では、この地域で7世紀前半に大規模な整地が行われてお
り、その範囲は東西が大官大寺の伽藍中軸線から西へ300m以上、
南北が旧小山池の北堤付近から北へ330m以上におよんでいるこ
とが確認されている。検出した遺構は掘立柱建物、井戸、およ
び土坑である。SB5250は総柱の掘立柱建物で、東西・南北とも
3間と考えられるが、西への広がりには確認できていない。柱間
寸法は2.15m。SE5251は方形縦板組みの井戸であるが大部分は
抜取られており、隅柱3本と横棧2本が残る。遺物は整地土層
やSB5250の柱掘形、SE5251の積石下部、SD5253から7世紀中
頃の土器が少量出土しており、この時期に整地を始め、建物や
井戸の造作が一連の作業として行われたと推測される。この整
地地業については「飛鳥岡本宮」「後飛鳥岡本宮」との関連が想
起される。



(山岸常人)

第48-16次調査遺構図

1986年度 飛鳥藤原宮跡発掘調査部調査一覧

調査地区	遺跡・調査次数	調査期間	面積	備考
6AJP-E	藤原京 第48次	86. 4. 7~86. 8. 1	2,600m ²	左京二条一坊東北坪・二坊西北坪・東一坊大路
6AWH-P・Q	藤原京 第49次	86. 6.27~86.10. 4	2,140m ²	右京七条一坊西南坪
6AJC-N 6AJD-A・H	藤原京 第50次	86. 7.28~86.12.19	2,500m ²	左京六条三坊・六条条間路・東三坊坊間路
6AJM-A・B	藤原宮 第51次	86.12. 5~87. 4.23	2,240m ²	宮西南隅・(四分遺跡)
6AJQ-C・D	藤原京 第52次	86.12.17~87. 1.27	700m ²	右京二条三坊西北坪・西二坊大路
6AJC-F 6AJD-A・H	藤原京 第53次	87. 2.13~87. 5.12	3,000m ²	左京六条三坊・東三坊坊間路
6AJC-K	藤原京 第48-1次	86. 4. 1~86. 4. 3	55m ²	左京五条三坊・東二坊大路
6AWH-J	藤原京 第48-2次	86. 4. 2~86. 4.18	325m ²	左京七条一坊西南坪
6AJB-R	藤原宮 第48-3次	86. 4. 8~86. 5. 9	302m ²	宮東方官衙
6AJM-C	藤原宮 第48-4次	86. 5.19~86. 6.10	300m ²	宮南面外周帯
6AJH-R	藤原宮 第48-5次	86. 5.22	7m ²	宮南面外周帯
6AWH-K	藤原京 第48-6次	86. 6.11~86. 7. 3	555m ²	朱雀大路
6AJJ-B	藤原京 第48-7次	86. 6.12~86. 6.16	30m ²	二条大路
6AJP-T	藤原京 第48-8次	86. 6.16~86. 6.30	316m ²	右京二条一坊・二条条間路
6AJC-T	藤原宮 第48-9次	86. 6.30~86. 7. 1	18m ²	宮東南隅
6AJC-H	藤原京 第48-10次	86.10.24~86.10.29	39m ²	左京五条三坊西北坪
6AJF-U	藤原宮 第48-11次	86.11.10~86.11.17	88m ²	宮西方官衙
6AJM-E・F	藤原京 第48-12次	86.11.13~86.12. 4	195m ²	右京七条二坊東北坪
6AMJ-J	藤原京 第48-13次	86.12. 8	7.5m ²	左京十二条三坊
6AOH-W	藤原京 第48-14次	86.12. 8~86.12.24	144m ²	南京極
6AMG-H	藤原京 第48-15次	86.12.10~86.12.11	24m ²	左京十条三坊西北坪
6AMG-J	藤原京 第48-16次	86.12.12~86.12.26	105m ²	左京十条三坊東北坪
6AJF-Q	藤原宮 第48-17次	87. 2. 9~87. 2.10	19m ²	宮西方官衙
6AJM-D	藤原京 第48-18次	87. 2.20~87. 3. 3	115m ²	右京七条二坊
6AWH-K	藤原京 第48-19次	87. 3. 2~87. 3.16	370m ²	朱雀大路
6AMD-V	水落遺跡 第6次	86. 2.12~86. 2.25	45m ²	飛鳥浄御原宮推定地
6AMD-T	石神遺跡 第6次	86. 8. 4~87. 1.27	860m ²	飛鳥浄御原宮推定地
6AMD-A	石神遺跡周辺	86. 4.22~86. 4.25	8m ²	飛鳥浄御原宮推定地
5BTU-L	豊浦寺 1986-1次	86. 4. 1~86. 4. 7	8m ²	講堂
6BHQ-D・E	檜隈寺 第5次	86. 8. 4~86.10.14	600m ²	寺域北西部
5BTB-B	橘寺 1986-1次	86. 9.26~86.11. 5	160m ²	寺域北限
5BWD-G・K	和田廃寺 第3次	86.10.13~86.11. 4	245m ²	寺域南部
6BKH-F	川原寺 1986-1次	86.12. 5~86.12. 6	10m ²	寺域西北部
5BJR	定林寺 第2次	87. 1.28~87. 2.25	303m ²	寺域東部
6AMC-F	山田道関連	87. 3.26~87. 3.27	8m ²	山田道推定地